

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	社 会（歴史的分野）
-----	------------

発行者	総合的な所見
-----	--------

東 書	<p>（ア）第1の観点 基礎・基本の定着</p> <p>①見開きごとにタイトルを「モンゴルの襲来」「南北朝の動乱と室町幕府」「応仁の乱と戦国大名」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけ形態で1時間の追求する課題を示している。また、見開き右ページの下段に、「チェック」と「トライ」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p> <p>②資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」「世界の記憶」「無形文化遺産」のマークが付いている。また、巻頭の見開きに「日本の国宝・重要文化財」がまとめられている。神話・伝承等に関する事例数は5である。</p> <p>③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが1、中世が2、近世が3、近代が3である。</p> <p>（イ）第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>①見開き2ページにわたり、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表を掲載し、資料の読み取りやグループ学習について示している。また、キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。</p> <p>②調べる手順や方法については、「テーマの設定」、「調査」、「考察」、「まとめ・発表」、「考察」と示している。記載の仕方については、「第1章 歴史のとびら」に「2節 身近な地域の歴史」を設け、調べ学習における、学習のポイントについて示している。また、各大項目の終わりに、「地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け、身近な地域の調べ学習の例を示している。</p> <p>（ウ）第3の観点 内容の構成・配列・分量</p> <p>①A 総ページ304ページ。歴史との対話12、古代44、中世36、近世50、近代102、現代32、その他28である。</p> <p>B 小中一貫教育の視点として、「第1章 歴史のとびら」の「1節 歴史をとらえる見方・考え方」に小学校の学習要領で示された42人の人物や文化財、出来事を振り返る活動が示されており、各単元(章)の導入部でも、小学校社会科で学習した内容を資料や年表で振り返る活動が示されている。</p> <p>C 「地域の歴史を調べよう」で「広島復興と平和への思い」というタイトルで、被爆地である広島戦後の復興について調べる学習が設定されている。</p> <p>②古代はタイトル「ギリシャ・ローマの文明」、近代はタイトル「イギリスとアメリカの革命」、「フランス革命」、現代はタイトル「民主化と日</p>
-----	--

本国憲法」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真133、絵図85、地図33、図表・グラフ27、文書資料44、年表5、人物56であり、他分野（地理・公民）や他教科との関連が示されている。
- ②ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふり仮名の文字濃度を薄くしている。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。また、本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分の色分けしている。ページの隅の色分けで、学習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「中世とはどのような特色を持つ時代だったでしょうか」という問いに対して、「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四側面から、自分の考えを文章にまとめる。文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①見開きごとにタイトルを「海から押し寄せる元軍」「このごろ都にはやるもの」「下剋上の世へ」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「どのように」等の問いかけ形態で1時間の追求する課題を示している。また、見開き右ページの下段に、「確認」と「表現」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。
- ②資料に「世界遺産」「国宝」「重要文化財」のマークが付いている。神話・伝承等に関する事例数は3である。
- ③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが1、中世が1、近世が3、近代が1、現代が1である。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①1ページを使い、絵図で歴史的が事象を示すとともに、年表でこれから学習する時代を示している。また、キャラクターの話し言葉から章の学習課題を導くよう構成している。さらに、見開き2ページにわたり絵図と絵図に係るキャラクターの問いを掲載している。
- ②調べる手順や方法については、「テーマを決めよう」、「情報を集めよう」、「具体的な調査の課題を決めよう」、「野外調査・聞き取り調査を進めよう」、「整理して考察しよう」、「調査の結果をまとめよう」、「発表して学習を振り返ろう」と示している。記載の仕方については、「第1章 歴史のとらえ方・調べ方」に「2節 身近な地域の歴史」を設け、調べ学習における、学習のポイントについて示している。また、各大単元において、「身近な地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け、身近な地域の調べ学習の例を示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①A 総ページ310ページ。歴史との対話15、古代42、中世36、近世50、近代108、現代36、その他23である。
B 小中一貫教育の視点として、「第1章 歴史のとらえ方・調べ方」において小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産を振り返りながら、時代区分や年表の見方を確かめる活動や、身近な地域の歴史を調べる学習の例示をなどが位置づけられている。また、本文中に登場する人物について、小学校で学習した人物には「小学校」のマークを付けている。
C 「歴史を探ろう」で「戦争の記憶をつなぐ人たち」という学習が設定されており、保存工事が行われた原爆ドームの資料が掲載されている。
- ②古代はタイトル「すべての道はローマに通ず」、近代はタイトル「代表なくして課税なし」、現代はタイトル「敗戦からの再出発」、「平和国家を目ざして」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真123、絵図86、地図28、図表・グラフ32、文書資料21、年表7、人物51であり、資料への問いかけが設定され、生徒の疑問を引き出している。
- ②ユニバーサルデザインフォントを使用している。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線で示している。また、本文ページ見開きのレイアウトを統一している。ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「中世がどのような時代だったかを表現し、その理由を説明しよう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。文章でまとめる前に、古代と中世を比較した表を、「政治」「外国との関係」「文化」の視点でまとめる活動を設定している。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①見開きごとにタイトルを「海を越えて迫る元軍」「南北朝の内乱と新たな幕府」「全国に広がる下剋上」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。また、見開き右ページの下段に、「確認しよう」と「説明しよう」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。
- ②資料に「世界遺産」「世界の記憶」「国宝」のマークが付いている。また、巻末の折り込みに「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。神話・伝承等に関する事例数は3である。
- ③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが4、中世が4、近世が3、近代が7である。

(イ) 第2の観点 主体的に学習の取り組む工夫

- ①導入の特設ページは設けられていないが、タイトル下に章の学習課題を示している。また、小単元の導入に「タイムトラベル」という見開き2ページの特設のページにより、絵図で歴史的事象を示すとともに、絵図の人物を用いた年表を掲載している。資料読み取りの活動を示している。
- ②調べる手順や方法については、「歴史を探る～博物館に行ってみよう～」、「資料をよく見てヒントを探そう～ヒントを探してみよう～」、「謎解きの答えをまとめよう～自分の考えを表現しよう～」と示している。記載の仕方については、「第1章 歴史のとらえ方と調べ方」に「第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」を設け、調べ学習における、学習のポイントを示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①A 総ページ306ページ。歴史との対話13、古代44、中世36、近世54、近代108、現代30、その他21である。
 B 小中一貫教育の視点として、「第1部 歴史のとらえ方と調べ方」の「歴史をたどろう」や、節の冒頭に設けた時代を概観するイラスト「タイムトラベル」では、小学校で学習した人物や既習事項が示されている。
 C 「厳島神社」や「原爆ドーム」等、広島にあるものが資料として掲載されている。
- ②古代はタイトル「ギリシャ・ローマの政治と文明」、近代はタイトル「市民革命の始まり」、「人権思想家からフランス革命へ」、現代はタイトル「新時代に求められた憲法」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真136、絵図85、地図40、図表・グラフ38、文書資料2、年表4、人物53である。

②ユニバーサルデザインフォントを使用している。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えたり、グラフの周囲を周りとは違う色にしたりしている。また、本文ページのレイアウトを統一している。ページ隅の色分けと見開き右側の年表で、学習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

①「この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明しよう。」という問いに対して、自分が重視した歴史的な見方・考え方を明らかにして文章にまとめる。時代や特色をまとめる前に、2つの学習課題を設定している。A身分や職業について、「タテ（支配）とヨコ（対等）の関係図を作ってみよう。」という問いに対して、図で自分の考えをまとめる。B「章の問いの答えを説明しよう。」という学習課題に対して、自分の考えをまとめる。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①見開きごとにタイトルを「モンゴルの襲来と鎌倉幕府への失望」「南北朝の動乱と室町幕府の成立」「応仁の乱と戦国大名」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。また、ページの下段に「ステップアップ」を設定し、さらなる課題追求に向けた発問や学習課題を示している。
- ②資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。巻頭に「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。神話・伝承等に関する事例数は1である。
- ③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが3、中世が4、近世が1、近代が2である。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①見開き2ページにわたり、年表で、これから学習する内容を日本史と世界史に分けて示すとともに、単元全体に係る説明を掲載している。また、日本史と世界史の主な歴史的事象の写真や絵図を掲載している。
- ②調べる手順や方法については、「テーマを設定しよう!」、「さあ調査だ!」、「レポートをつくって発表しよう!」と示している。記載の仕方については、「第1章 歴史との対話」に「2節 身近な地域を調べよう」を設け、調べ学習における、学習のポイントについて記述している。また、各大単元において、「地域からのアプローチ」というコーナーを設け、身近な地域の調べ学習の例を示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①A 総ページ294ページ。歴史との対話9、古代48、中世40、近世52、近代100、現代30、その他15である。
B 「地域からのアプローチ⑥広島」で「地図から原爆の被害を受けた広島を考えよう」や「歴史と文化が豊かな広島を世界遺産から考えよう」などの問いを示している。
- ②古代はタイトル「地中海文明の発展」、近代はタイトル「市民革命の時代」、現代はタイトル「占領下の日本」、「日本国憲法と民主化」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真151、絵図86、地図35、図表・グラフ37、文書資料19、年表3、人物49であり、資料に関して考えてほしい課題が示されている。
- ②ユニバーサルデザインフォントを使用している。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値があり、複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。また、本文ページのレイアウトを統一している。ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ① 4つの立場（人）を示し、それぞれの立場で問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場を設定している。自分の考えは、「鎌倉時代」から「戦国時代」の4つに時代区分のそれぞれでまとめる。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①見開きごとにタイトルを「元の襲来と鎌倉幕府」「南北朝の動乱と室町幕府」等の項目で示し、タイトルの下段に「ユーラシアの帝国と御家人の奮闘」「京の将軍と守護大名」等の学習内容を表す副題を示している。タイトル左横に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。また、ページの下段に「確認」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。
- ②資料に「国宝」「世界遺産」のマークが付いている。また、巻末の折り込みに「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。神話・伝承等に関する事例数は3である。
- ③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが2、中世が2、近世が4、近代が1、現代が2である。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①見開き4ページにわたり、年表で、これから学習する内容を日本史と世界史に分けて示すとともに、単元全体に係る説明を掲載している。また、日本史と世界史の主な歴史的事象の写真や絵図を掲載している。
- ②調べる手順や方法については、「史跡見学に行こう 平城京跡を歩く」、「歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる」、「城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる」等の項目で示している。記載の仕方については、各大単元において、「でかけよう！地域調べ」というコーナーを設け、調べ学習における、学習のポイントを示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①A 総ページ328ページ。歴史との対話8、古代50、中世42、近世52、近代102、現代38、その他36である。
B 小中一貫教育の視点として、「学習した人物：西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允・勝海舟」等、ページの左下に「連携コーナー」を設け、小学校の学習とのつながりを示している。
C 「でかけよう！地域調べ」で「歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる」として、中世の港町・市場町として栄えた草戸千軒町遺跡を調べ、歴史新聞を作る活動が示されている。
- ②古代はタイトル「ギリシャ・ローマの文明」、近代はタイトル「アメリカの独立とフランス革命」、現代はタイトル「占領と改革の始まり」、「平和で民主的な国家をめざして」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真105、絵図78、地図35、図表・グラフ37、文書資料31、年表38、人物49であり、資料活用の視点が示されている。
- ②ユニバーサルデザインフォントを使用している。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは区切りを入れて

いる。複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。また、本文ページ見開きのレイアウトを統一している。ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「中世に定められた主な『法』に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。自分の考えを文章にまとめるために、3つのステップで学習を進める。

(ア) 第1の観点 基礎・基本の定着

- ①見開きごとにタイトルを「元寇と鎌倉幕府のおとろえ」「南北朝の動乱と室町幕府の成立」「応仁の乱と戦国大名等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのようにして」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を提示している。また、見開き右ページの下段に、「えんぴつ」マークがあり、学習課題に対応した学習活動を示している。
- ②資料に「国宝」「世界遺産」のマークが付いている。また、巻頭や巻末で世界遺産や国宝を紹介している。
- ③日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数は、古代までが4、近代が3、現代が1である。

(イ) 第2の観点 主体的に学習に取り組む工夫

- ①1ページを使い、絵図等で歴史的事象や、全ての歴史学習の中のどの期間の学習をするかが分かる年表や、キャラクターの言葉を掲載している。次の見開き2ページにわたり、絵図から武士の生活について読み取る学習活動を示している。
- ②調べる手順や方法については、「助言をいただく」、「事前調査」、「調査テーマと調査のねらいの明確化」、「調査活動」、「発表の仕方」のコツ、「歴史ワクワク調査隊・6つの心得」と示している。記載の仕方については、序章及び第4章において、「地域の歴史を調べてみよう」などのコーナーがあり、調べ学習における、学習のポイントを示している。

(ウ) 第3の観点 内容の構成・配列・分量

- ①A 総ページ314ページ。歴史との対話13、古代50、中世34、近世52、近代102、現代33、その他30である。
B 小中一貫教育の視点としては、序章の「歴史探検！歴史の流れと先人の活躍」で、小学校で学習した歴史上の人物42人の似顔絵を活用することで、生徒が楽しく歴史学習を開始できるようにしている。
C 「第5章 二度の世界大戦と日本」、「2節 第二次世界大戦終結までの日本と世界」において、原爆ドームの写真が掲載されている。
- ②古代はタイトル「ギリシャとローマの文明」、近代はタイトル「市民革命と近代社会の成立」、現代はタイトル「占領下の日本と日本国憲法」で民主主義の来歴や人権思想の広がりについて示している。

(エ) 第4の観点 内容の表現・表記

- ①掲載資料の内訳は、写真89、絵図74、地図34、図表・グラフ36、文書資料17、年表10、人物77である。
- ②ふりがなにゴシック体を用いて、小さな文字が読みやすいようにしている。円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値があり、隣り合うデータは区切りを入れている。複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。また、本文ページ見開きのレイアウトを統一している。ページの隅の色分けと下部への記載で、学

習内容を示している。

(オ) 第5の観点 言語活動の充実

- ①「この時代はどのような時代だったといえるのか」といった問いに対して、自分の考えを文章にまとめ、クラスで話合う。学習の手がかりとして、5つの活動を設定している。①年表の空欄に当てはまる言葉を選ぶ。②戦いについての整理をする。③この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。④歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選ぶ。⑤暮らしや社会の様子について、資料や前の時代の様子を参考にして説明する。